

## 「リゼッテと みどりいろの くつした」

ある はれの ひの こと、リゼッテは おさんぽに でかけました。

おうちの ちかくで、  
リゼッテは くつしたを みつめました。  
きれいな みどりいろの くつしたです。

「いいもの みーっけ！」リゼッテは いいました。  
「こんなに すてきなもの はじめて みたわ！」  
リゼッテは その くつしたを はいて、げんきに おさんぽを つづけます。

リゼッテは ねこの トムと ティムに あいました。  
その きょうだいは リゼッテを からかうのが だいすきです。  
「みて、すてきな ものを みつけたの！」リゼッテは じまんしました。  
「かたっぽの くつしたじゃないか！リゼッテは おっちょこちょいだね。  
もうかたっぽは どこに あるんだい？くつしたは ふたつで ひとつ なんだよ？」

「ああ、そっか。」リゼッテは しょんぼり。  
「くつしたは ふたつで ひとつよね。もうかたっぽを さがさなくちゃ。」

リゼッテは、いちばん たかいきに のぼりました。  
きの てっぺんからは すべてが みえます。  
でも、どんなに めを こらしても、くつしたは どこにも みあたりません。  
「わかったわ！うみに おちて しまったのね。」  
リゼッテは きから おりて、いそいで うみべに いきました。

リゼッテは つめたい みずの なかを のぞきました。  
さかなさんが さがすのを てつだって くれるかも しれません。  
「こんにちは、さかなさん。 くつしたを みかけて ないですか？」  
「いいえ。」さかなさんは いいました。  
「でもね、おおきな ポットと ちいさな くまでを みつけたんだ。  
こんなものが みずの なかに あるって、ふしぎでしょ！」  
「ほんとね。」リゼッテは ためいきを つきました。

「でもね、わたし くつしたを さがしているの。」

がっかりした リゼッテは おうちに かえりました。

「リゼッテ、どうして そんなに かなしい かおを しているの？」

おかあさんが たずねました。

「わたし くつしたを みつけたの。でもね、かたっぽだけ。

くつしたは ふたつないと だめなの。」リゼッテは こたえました。

「そのとおりね。」おかあさんは いいました。

「くつしたは ふたつで ひとつ、くつと おんなじ だもんね。

それを わたしに かしてごらん。よごれて いるから あらって あげるわね。」

リゼッテは、すわって くつしたが かわくのを まちました。

「それは きみの ぼうしかい？」

リゼッテが ふりむくと、そこには ともだちの バートが いました。

「いいえ、ぼうしじゃないわ。これは くつしたよ。」

「なんだあ、くつしたか！でも、そんな ぼうしが ずっと ほしかったんだ。

ちょっと かぶってみても いい？」

「べつにいいよ。」

リゼッテは おおわらい しました。

「わたしの くつした、あなたに とっても にあってるわ！」

「そうだろ、すてきな ぼうしだろ。」

「そうね。ふたつ そろってたら、かたっぽ あなたに あげるのに。」

そこへ、トムと ティムが こっそり ちかづいて きました。

「ここだよ！」ティムが よびます。

「これを みつけたよ リゼッテ... きみの もうかたっぽの くつした！」

「どこにあったの？」

リゼッテが きいても、にひきは おしえて くれません。

「こっちへ おいでー！」そう さげびながら にげていきます。

リゼッテと バートは いそいで おいかけました。

「やれやれ！あのこたち、すばしっこいや。」

トムは いきを きらします。

すると ティムが いじわるそうに いいました。

「だけど、くつしたは あげないよ。」

“ぽちゃん！”

ようやく おいついた リゼッテと バート。

「よーし！」リゼッテは いいました。「くつしたを こっちに ちょうだい。」

「くつしただって？そんなの もって ないよ。ほらね、とんで いっちゃった。」

バートが リゼッテの そでを ひっぱります。

「もういいよ。あいつらは いじわるで うそつきだ。

くつしたは とんだりなんか しないもん。」

「こんなのあんまりだわ。」リゼッテは いいました。

「おそろいの ぼうしは もうないけど、もうすこし かぶってても いいよ。

おうちに ついたら かえしてね。」

「ありがとう。」バートは かなしそうに つぶやきました。

おうちに かえると、サプライズが まっていました。

おかあさんが、あたらしい くつしたを あんで くれたのです。

それに、みどりいろ。 かたっぽだった くつしたと そっくりです。

リゼッテは おおよろこびして、おかあさんに だきつきました。

「バートみたいに、それを かぶるの？」

おかあさんが そうきくと、

リゼッテは めを かがやかせて いいました。

「もちろん！これで おそろいの ぼうしよ！」

バートも うれしくて、おもわず おどりだします。

ねるじかんになり、バートは おうちに かえりました。

リゼッテは ぼうしを かぶって ねるそうです。

“ふふっ、バートも ぼうしを かぶって ねるんだろうな。”

そうおもいながら、リゼッテは ねむりに つきました。

しかし、だれよりも すてきな よるを すごしたのは、さかなさんです。  
ポットに くまで、そして みどりいろの ねぶくろを みつけて  
とっても しあわせそう。

こんなにすてきなくつした  
はじめてみた！

